



今井小だより

横浜市立今井小学校

令和3年6月30日

学校だより 7月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き！今井大好き！」

東京オリンピック・パラリンピック

学校長 森脇 信行



校長室前の本物のグミ

新型コロナウイルスの世界的広がりにより、1年間延期されていたオリンピックが7月から、そしてパラリンピックが8月から開催されます。

1896年、今から125年も前にアテネで始まったオリンピックに比べて、パラリンピックの歴史は始まったばかりです。1948年、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院で開かれたアーチェリー競技会がパラリンピックの起源と言われています。第二次世界大戦で脊髄を損傷した

兵士たちがオリンピックに合わせて競技会を開いたことが始まりでした。そのため、パラリンピックの「パラ」の語源は下半身麻痺を指す「パラブレジア」の「パラ」だったそうです。リハビリの一環でもあったこの大会は回を重ね、国際大会へと成長していきました。当時は、障がい者にとって住みやすい社会ではなかったため、重度の鬱状態に陥るのが常でした。患者たちを人間らしく扱い、声に寄り添い、社会の真ん中に居場所を与え、スポーツを通して肉体的にも精神的にも救いたいというのが目的の一つでありました。日本のパラリンピックの父と呼ばれる医師の中村裕さんは研修先のイギリスでスポーツを取り入れた障がい者のための医療を学び、日本にはリハビリという言葉もなかった時代に私費を投じて障がい者スポーツを広げました。その後、パラリンピックの「パラ」の意味は進化し、「パラレル」の「パラ」、「もう一つの」「対等の」という意味が加わりました。そして、現在のパラリンピックは、「もう一つのオリンピック」として、1988年のソウルオリンピックから正式名称となり、対麻痺者のためだけでなく、その他の障がい者を含めた国際大会となりました。

今年の東京オリンピック・パラリンピックには大会開催基本計画に挙げられた3つのコンセプトがあります。「すべての人が自己ベストを目指し、一人ひとりが互いを認め合い、そして未来につなげよう。」です。このコンセプトは、この大会だけに当てはまるものではなく、コロナ禍であっても、私たちの普段の生活や、これからの時代に必要とされる大切な考え方であると思います。感染拡大の収束が見えない中、開催にあたっていろいろな意見が出された大会となりましたが、このコンセプトが実現できる大会であってほしいと願います。